調理場職員の皆さん。水の冷たい寒い冬も、40℃を超すこともある暑い夏もおいしい給食を作ってくれました。ありがとうございました。

お別れセレモニーの様子。58年間の感謝をこめて、全校生徒で校歌を歌いました。

58年間おいしい給食ありがとう
大山学校給食センター お別れの日

施設および設備の老朽化にともない、はごろも学校給食センターへ統合されることになった、大山学校給食センターのお別れセレモニーが3月22日（水）に大山小学校にて行われました。

1965年（昭和40年）、宜野湾市では初となる大山学校給食センターが誕生し、市内小中学校では第1号となる大山小学校での給食が開始しました。

学校敷地内で調理・運搬を行う単独調理場方式を採用する同センターでは、休み時間になると児童の皆さんがセンターの窓から顔を覗かせ、今日の献立を訪ねるなど給食の時間を待ち望んでいる様子が見られました。

ガス加熱方式を採用した鉄なべの釜で調理される給食は、その高い火力から香ばしさを生み、カレーの日などはその美味しそうな香りに誘われ、時には先生が訪れるほどにぎわいました。

調理後は速やかに、常に温かい給食が教室へと届けられ、食後は給食の感想を伝えに児童が調理場を訪れるなど、常にお互いの顔が見える環境にあった大山学校給食センター。

児童の皆さんの期待に応えるため、調理員や栄養士の方々の献立にも工夫が見られました。

季節や行事に合わせた献立や、地域の特産物である大山田いもを用いた伝統料理、児童の皆さんに人気の高い給食から構成されるリクエスト給食などは特に人気を博し、中でも大きな魚を丸ごと一匹調理した「シイラの姿揚げ」は、その迫力に教室中から歓声が上がりました。

この日、児童代表あいさつをした6年生の宮城椿（みやぎつばき）さんは「毎日、授業中に漂ってくる給食の香りがとても楽しみでした。出来たてであたたかい給食がとても嬉しくおいしかったです。大山学校給食センター、そして毎日一生懸命給食を作ってくれる調理員の皆さん、長い間ありがとうございました」と思いを語りました。

市教育委員会の仲村宗男教育長は「児童の皆さんと同様に、卒業生や地域の皆さんも大山学校給食センターの給食を食べて育ちました。私自身も大山小学校の卒業生です。ここ、大山小学校で食べた給食の思い出がたくさんあります。大山っ子のためにおいしい給食を作っていただき感謝しています。長い間ありがとうございました」と感謝の気持ちを寄せました。

58年間、休まずおいしい給食を届けてくれた大山学校給食センターへ。

ありがとう。そしてお疲れ様でした。

調理場内。休み時間になると、中庭へと続く窓から給食を待ちきれない児童が顔を覗かせます◀

迫力満点！シイラの姿揚げ◀

最終日の給食はもちろんみんな大好きカレーライス◀